

説教題：

「OIC 信仰声明、第 8 項：私たちは永遠の命に至る肉体的な復活を信じています。」

鍵となる聖句：

テサロニケ人への手紙 第一 4:16-18 - 「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、¹⁷次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。¹⁸ こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」

ヘブル人への手紙 9:27-28 - 「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、²⁸キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。」

みなさんおはようございます。今日は、大阪インターナショナルチャーチの信仰声明に関する説教シリーズを続けます。私たちがクリスチャンとして生きるための基本的で本質的な教義を思い起こすことは重要だと思います。ですから、私は信仰声明の 10 項のそれぞれに 1 つのメッセージを費やすこのシリーズに着手しました。普段は月に 1 項しか取り上げていませんが、今月は 2 項と密接に関連しているため、2 つの項を取り上げます。どちらも私たちの将来の希望、つまり主イエス・キリストの再臨とイエスと共にある私たちの生活と関係があります。先週、私たちはキリストの人としての再臨を見ました - これはしばしばキリストの再臨またはキリストの降臨と呼ばれます。復活された体で、わたしたちのために地上に戻られるのはイエス・キリスト御自身です。 - 一部の人が誤って提案したように、ある種の精神的で非物質的な再臨ではなく、人としての再臨です。今週は、関連するトピック、つまり私たち自身の体の復活を見ていきます。あなたと私、私たちが死んだ後、私たちは新しい体でよみがえります。復活祭の日曜日に、私は罪と死に対するイエス・キリストの勝利についてメッセージを述べました - イエスは、私たちの罪の罰として十字架で死にました、そしてそれからイエスは死に勝利して、新しいからだで、よみがえられました。：それは同じ人でしたが、新たにされ、栄光を受けた体でした。キリストに信仰を置くわたしたちは、新たに栄光を受けた体をもって復活し、神とその御子イエス・キリストとともに永遠に生きることを楽しみにしています。本日のメッセージのタイトルは、「OIC 信仰声明、第 8 項：私たちは永遠の命に至る肉体的な復活を信じています」です。

今日は、「終末論」というテーマについてお話しします。この言葉はギリシャ語の *eschatos* に由来し、「最後の」または「最終の」を意味します。したがって、「終末論」は「最後の事についての学問」を意味します。これらは、時の終わり、この時代の終わり、神の国が完全に実現し、新しい天と新しい地が確立されたときに起こることです。

旧約聖書は、世界の創造、人類の罪への墮落、罪の裁きと創造主との関係の回復の手段の提供の両方における神の活動の物語です。旧約聖書を読むと、神が人々に対して憐れみ、その後不誠実さと不従順が続き、神の裁きをもたらし、次に神の憐れみが新たに与えられるというパターンが繰り返されていることがわかります。アダムとイブの罪、神は、その女の子孫が蛇を打ち負かすと言われ、人類の裸を覆うために神が動物の皮を提供した時、神の贖いにヒントがあります。 - つまり人間の罪を覆うために初めて血が流されたのです。人類が

罪に陥るだけでなく、エノクやノアのような少数の義人も見られます。洪水の裁きがあり、ノアの家族に憐れみが示されます。神の選民の先祖であるだけでなく、地球のすべての家族が祝福されるルートでもあるアブラハムの召しがあります。約束の地にイスラエル王国が設立され、ダビデの子孫が神の民を治めるという約束が見えます。私たちは神の民の不誠実さを見て、それから神は彼らを捕囚に送ります。－ アッシリアとバビロンで。しかし、預言者エレミヤとエゼキエルは、新しい契約という神の約束を伝えています(エレミヤ 31 章とエゼキエル 36 章参照)。そしてイザヤ書にはメシアの預言があります。私たちは、神が造られる新しい天と新しい地さえ見ます。(イザヤ 65:17 を参照)。:「見よ、まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。先の事は思い出されず、心に上ることもない。」イザヤ書が「旧約聖書の福音書」と呼ばれたのは、多くのメシアの預言のためです。－ 彼の誕生、彼の勝利の預言だけでなく、古いユダヤ人の解説者の一部を困惑させた「苦難の僕」であるメシニックな人物でもあるためです。

そして、私たちは新約聖書に来て、そこで私たちはメシアであるイエス・キリストの来臨をみますが、多くの預言の成就を見ます。イエスの先駆者であるバプテスマのヨハネを見ます。

マタイの福音書 3:1-3 – 「そのころ、バプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。²「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。³この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」と言われたその人である。」

マルコの福音書 1:14-15 – 「ヨハネが捕えられて後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。¹⁵「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」

これが福音のメッセージの出発点です：悔い改めなさい、神の国が近づいたからです...神の国が近づいてきました...ですから、福音のメッセージを信じてください。マタイはバプテスマのヨハネがイザヤを通して語られた預言を成就したと説明しました:「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。」これは私たち一人一人へのメッセージです：あなたの罪を悔い改め、あなたの心を主に開くことによって、あなたの人生で主のために道を備えてください。

紀元 1 世紀の間、メシアがすぐに現れるという期待がありました。彼らはダニエル書 9 章を読み、メシアの出現の予測時間の計算を行い、それがすぐに来るに違いないことを知っていました。しかし、期待されていたのは、国をローマによる支配から解放する政治的救世主でした。彼らはイエスのミニストリーに興奮しましたが、多くの人々は戸惑いました。イエスは教え、癒しておられましたが、人々はもっと多くのことを期待していました。イエスの弟子たちはもっと期待していましたが、パリサイ人とサドカイ人は、この人イエスのような人を期待しておらず、バプテスマのヨハネでさえ戸惑いました。

マタイの福音書 11:2-5 – 「さて、獄中でキリストのみわざについて聞いたヨハネは、その弟子たちに託して、³イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待つべきでしょうか。⁴イエスは答えて、彼らに言われた。

「あなたがたは行って、自分たちの聞いたり見たりしていることをヨハネに報告しなさい。⁵盲人が見、足なえが歩き、らい病人がきよめられ、つんぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧しい者には福音が宣べ伝えられているのです。」

それがバプテスマのヨハネに対するイエスの答えです – 明確な、イエスあるいはノーを与えるのではなく、イエスは彼にイエスのミニストリーについて見聞きしたことに注意するように言われます：癒しがあり、福音の言葉が宣べ伝えられました。これは確かに旧約聖書の預言の成就の始まりです。神の国は確かに開始しました。

予想とは全く異なる形をとっています。神にはご自分のタイミングがあります。先週、弟子たちの王国への期待についてわたしが皆さんに話したことを覚えていますか。それはキリストの復活の後、そして彼が天国に昇天する直前でした。

使徒の働き 1:6-8 – 「そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」⁷イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。⁸しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

テサロニケ人への手紙 第一 4:13-18 – 「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。¹⁴私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあつて眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずですよ。¹⁵私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。¹⁶主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、¹⁷次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。¹⁸こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」

ヘブル人への手紙 9:27-28 – 「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、²⁸キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

神は時刻表をお持ちです。主は御自身の計画に従ってイスラエルに王国を回復されます。今、私たちは神が私たちに与えたやるべきことに焦点を合わせるべきです：先週、私が先週 2 ペテロ 3:11 であなたにお示したように、地の果てまでイエスの証人になり、すべての国の弟子を作り、聖なる、神を敬う生活を送ることです。

新約の時代は、バプテスマのヨハネによる「悔い改めなさい。神の国は近い」という宣言から始まります。王国は近いです。王国は実際に始まった——それは開始しましたが、まだ完全には実現していない。イエスは再び来られます。そうすれば、王国の設立は完全に完了します。

近年、私は、いわゆる「開始されたした終末論」について調べています。－王国は開始されましたが、まだ完成していません(完全には実現されていません)。神学者は、神の国の「すでに」と「まだ」の側面、つまり「すでに」と「まだ」の側面について話します。王国はすでに何らかの形でここにありますが、新約聖書は、私たちが神の国時代にどのように生きるべきかを教えています。－私たちクリスチャンは天国の市民であり、王の子供であることの特徴を示すべきです。神の国は何らかの形でここに「すでに」ありますが、ここでは完全に「まだ」ありません。主の祈りの中で、イエスは私たちに「あなたの御国が来ますように、あなたのみこころが天にあるように地にもなされますように」と祈るように教えています。私たちは、神がご自分の時に完全に確立される神の国の完全な完成を待つ間、この地上で天の価値を示す(神のみこころに従う)必要があります。

今日のメッセージは、終末論、私たちの将来の希望、そして私たちの将来の運命についてです。聖書には、描写、預言、イエス・キリストの再臨の約束、そして新しい体と新しい天と新しい地の私たちの家による彼の民の最終的かつ完全な栄光を与えるいくつかの箇所があります。黙示録の多くは、先週お見せしたマタイ 24 章のオリーブ山の談話と同様に、これについて語っています。ダニエル書 9 章とコリント人へ手紙 第一 15 章とテサロニケ人への手紙 第一 4 章と 5 章。今、これらの箇所のいくつかを見ましょう。

しかし、最初に、OIC 信仰声明から 2 つの項を読みしたいと思います。これらは、今日のメッセージの残りの部分について聖書を見る際の指針となります。先週、第 7 項と 8 項を読みましたが、今からもう一度読みます。これらは、私が先週と今週焦点を当ててきた私たちの将来の期待についての声明です。

第 7 項:

主イエス・キリストの再臨を信じ、この“幸いなる望み”こそ、個人の信仰生活とその働きに重要な意味を与える、と信じる。ヨハネによる福音書 14:2-3、ヨハネの手紙一 3:2-3。

第 8 項:

死者はすべてよみがえり、キリストにある死者は、主とともに永遠の祝福と喜びを受け、神に反する者は、さばきと永遠なる苦しみの刑罰を受ける、と信じる。テサロニケの信徒への手紙一 4:13-18、ヘブライ人への手紙 9:27。

第 8 項は、今日のための学びです。ですから、それをもう一度読ませてください。: **死者はすべてよみがえり、キリストにある死者は、主とともに永遠の祝福と喜びを受け、神に反する者は、さばきと永遠なる苦しみの刑罰を受ける、と信じる。**

これらの言葉には、よき知らせと悪い知らせの両方があります。キリストにある信者への良き知らせ: 「主とともに永遠の祝福と喜び」

信じていないこれらの人々への悪い知らせ: 「さばきと永遠なる苦しみの刑罰」

その最後の部分は、地獄と呼ばれる場所への言及です。これは現代社会では人気のあるトピックではありません – 多くの人々、多くのクリスチャンでさえ、これを敬遠しています。しかし、それは聖書で議論されているので、今日それについて議論します。「永遠の...意識のある...罰」絶えず。本当ですか。意識のある、(つまり痛みや苦しみを感ずる)罰は永遠に?

何年にもわたって、一部のクリスチャンは不信者の運命を説明する別の方法を見つけようとしてきました。すべての人間が最終的に救われるという「普遍救済説」の考えがあります。しかし、聖書には、ほんとうに不信者が永遠の滅びに直面することを示す聖句を余りにも多く、目にします。これらの聖句の幾つかを今日の後半で分かち合います。

この罰の考えを避けるために人々が思いついたもう一つの概念は、霊魂消滅説と呼ばれる理論です。この理論によれば、邪悪な人々が罰せられると、彼らは完全に破壊され、彼らは存在しなくなります – 消滅します。私は 20 代のときにこの考えについて聞き、著名な福音派がこの考えを持っていることを知りました。私はこの概念に惹かれましたが、黙示録を読むたびに、そこにあるいくつかの聖句から消滅の概念を得ることはできません。繰り返しになりますが、それらの聖句の幾つかを後であなたと共有します。

信仰声明の第8項を振り返って、今日のメッセージの残りの部分を3つの部分に分けたいと思います。

1. 信者と不信者の肉体的な復活
2. 不信者の永遠の運命
3. 信者の永遠の運命

パート 1. 信者と不信者の肉体的な復活

ヨハネの福音書 5:28-29 – 「このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。²⁹善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。」

善を行った人と悪を行った人の両方が同様に復活を経験します。しかし、彼らは2つの異なる方向に進みます。善人は「**命の復活**」を経験します。悪は「**裁きの復活**」を経験します。先ほど、誰もが最終的に救われるという「普遍救済説」の概念は、このような聖句を見ると支持できないとお伝えしました。人々には2つの種類があり、彼らは2つの異なる運命を経験するために死から復活します。

もう一つ他の聖句があります。コリント人への手紙 第一 6:9-10 – 「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、¹⁰盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。」

そのようなタイプの人々は神の国を受け継ぐことはありません。聖書は普遍救済説の概念を支持していません。

「大きな白い御座の裁き」と呼ばれるものについての有名な一節を読みましょう。ヨハネの黙示録 20:11-15 – 「また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。¹²また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。¹³海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。¹⁴それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。¹⁵いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」

これが最後の裁きです。すべての死者、信者と不信者は、大きな白い御座の前に連れて行かれます。白は神の純粋さと知恵を象徴しています。ここで言及されている本がいくつかあります：数々書物には個々の人々の行為の記録が含まれていますが、別の1冊の書物は「いのちの書」と呼ばれています。「いのちの書」には、キリストに信仰を置き、十字架で罪が赦されたすべての人の名前が記録されています。彼らは永遠の命を受け継ぎます。

ここに大きな白い御座では、不信者は他の本に書かれている彼らの行いに従って裁かれます—彼らは有罪と判断されます。彼らの悪行は彼らを罰に定め、15節は彼らの名前がいのちの書に記録されていないので、彼らは火の池に投げ込まれると言っています。14節は、火の池に投げ込まれることが第二の死であると言っています。最初の死は、地上での人生の終わりにある、私たちの肉体的な死でした。第二の死は、自分の道を進み、罪を悔い改めて神に立ち返らなかった人々の運命です。

パート 2. 不信者の永遠の運命

黙示録には、過去、現在、未来の特定の出来事について使徒ヨハネに与えられた一連の幻が含まれています。これらの幻の中には、海からよみがえった獣と地球からよみがえる別の獣について読んだ 13 章の幻があります。多くの聖書解説者は、ヨハネの手紙で言及されている反キリストまたはテサロニケ人への手紙 第二の 2 章で言及されている「不法の人」と最初の獣を同一視しています。黙示録 13 章の第二の獣は、人々に第一の獣を崇拝するように導くため、後に「偽預言者」と呼ばれます。これらの 2 匹の獣はサタン(黙示録ではドラゴンとして描かれている)と同盟を結び、キリストとその追隨者に反対する政治的および宗教的システムを主導しています。黙示録 19 章では、キリストは反キリストと偽預言者に対して勝利の軍隊を率えています。

ヨハネの黙示録 19 章 20 節- 「すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしるしを行ない、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕えられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたまま投げ込まれた。」これらの 2 つは、硫黄の燃える火の池に生きたまま投げ込まれました。

黙示録 20 章では、竜であるサタンが千年の間、底知れぬ所に縛られていることが説明されています。そして、イエスは千年の間地球を統治します - 私たちはこれを千年王国と呼んでいます。イエスは確かに戻ってきて王国を統治します。そして、千年が終わった後、サタンは彼の牢から解放され、最後の反抗を導きます。

ヨハネの黙示録 20:10 を読みましょう - 「そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」悪魔、獣、偽預言者は火の池に投げ込まれました。そしてそこで彼らは昼夜を問わず永遠に苦しめられるでしょう。黙示録 20:10 と黙示録 14:9-11 から、悪魔と彼に従うすべての人のための火の池での永遠の苦しみの、この描写が得られます。黙示録 20:10 の直後に、数分前に読んだ 11 節から 15 節の大きな白い御座の裁きがあります。神とその御子イエス・キリストに従わない者はみな、火の池に投げ込まれます。

数分前に、不信心で不従順な人が永遠の痛みを覚える罰を経験するという考えを好まないクリスチャンがいると言いました。最終的には誰もが救われるという考えを提案した人もいますが、私はすでにその考えを支持しないいくつかの節をあなたに提示しました。私はまた、不信者が単に完全に破壊され、存在しなくなることを示唆する霊魂消滅説の理論をあなたに話しました。私はその考えに惹かれましたが、黙示録のこれらの節は、その理論を受け入れるのは正しくないと私に教えました。

マタイの福音書 25 章 31 節から 46 節に、私たちに与えられた最後の裁きの別の描写があります。ここでは、人の子が御座に座っておられ、すべての国民を集めて彼らを裁くことが書かれています。彼はそれらを 2 つのグループに分けます：羊を彼の右手に、山羊を彼の左手に。

[説教の中では読まれません：マタイの福音書 25:31 - 33 - 「人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。³²そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、³³羊を自分の右に、山羊を左に置きます。」]

聖句全体を読むことはできませんが、2 - 3 節を読みましょう。マタイの福音書 25:34 - 「そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』」

正しい者は、王から栄誉を受け、そして神の民は王国を受けます。

41 節 – 「それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。』」

46 節 – 「こうして、この人たちは永遠の刑罰にはいり、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。」

神を敬わなかった邪悪な人々は永遠の罰に送られます。そして、ここに興味深い点があります(41 節)：永遠の火の場所は悪魔とその天使たちのために準備されました。地獄はあなたと私のために作られたものではありません。神は悪魔とその天使のために永遠の火を用意されました – 神に対する反逆でサタンに従った墮天使たち。地獄はあなたと私のために、私たち人間のために作られたものではありません。しかし、神とその義の基準に背を向け、悪魔とその墮落した道と世界の墮落した道に従うなら、あなたは永遠の火の中で悪魔と運命を分かち合うでしょう。

それはあなたの運命である必要はありません。地獄はあなたのために作られたものではありません。あなたがまだキリストに信頼を置き、罪から離れていないなら、あなたは今日それを行うことができます。OIC の奉仕者の一人と話すか、礼拝後に「リフト」の看板のところに行くと、私たちの奉仕者の一人が神との正しい関係に回復する方法を示すことができます。

パート 3 に移りましょう。信者の永遠の運命

私たちの信仰声明の第 8 項は、テサロニケ人への手紙 第一 4:13-18 とヘブライ人への手紙 9:27 の 2 つの聖書箇所を引用しています。

へブル人への手紙 9:27-28 を読みましょう – 「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、²⁸キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられました。二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。」

人々は一度死んでから裁きに直面する運命にあります。私は数分前にあなたにそれを説明しました。不義な者のために、彼らは裁きの復活に直面し、第二の死である火の池に投げ込まれます。28 節は、キリストに信仰を置き、キリストの再臨を待っている義人に焦点を当てています。その聖句は、イエスが最初に来られたとき、彼は私たちの罪のいけにえとなるために来られましたが、彼は二度目に来られます(それはキリストの再臨です)、そして彼が来るとき、彼は罪を負うためではなく、私たちの救いを完成させるために来られます、私たちを最終的に彼の王国に連れて行き、私たちに新しい体を与えるために、それが命への復活です。

テサロニケ人への手紙 第一 4:13-18 を読みましょう。ここで、使徒パウロはテサロニケ教会に手紙を書き、そこでいくつかの問題に取り組んでいます。これらの問題の 1 つは、そこにいるクリスチャンは、イエスがいつか彼らのために地上に戻ってくるという期待と関係がありました。しかし、彼らの教会員の何人かはすでに亡くなっていました。彼らは御国の一員になることを逃しますか?彼らは永遠の報酬を逃すでしょうか?いいえ、使徒パウロは言います – すでに亡くなった人々のことを心配しないでください – 彼らは逃すことはありません。

テサロニケ人への手紙 第一 4:13-18 を読みましょう – 「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。¹⁴私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずで。す。¹⁵私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは

決してありません。¹⁶主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、¹⁷次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになり、¹⁸こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」

すでに亡くなったクリスチャンは、キリストが戻られるときを逃すことはありません。実際、15節と16節には、他のクリスチャンよりも先に、まずイエスに会うためによみがえると書かれています。17節—その後、キリストの再臨の時にまだ生きているクリスチャンは、空中で主に会うために追いつくでしょう。そして、私たちは永遠に主と共にいるでしょう。これは神のラッパの音が鳴り響くことで起こります。

恐らく、コリント人への手紙 第一 15 章 50 - 53 節にある同じラッパでしょう。—「兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。⁵¹聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。⁵²終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。⁵³朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。」

最後のラッパで、死んだクリスチャンは不滅のものによみがえらされ、私たちクリスチャン全員が変えられるでしょう—私たちの死すべき、腐りやすい体は不滅の、朽ちない体に変えられます。44節は、「霊的な体」を持ってよみがえらされたことについて語っています。多くの聖書解説者は、私たちに与えられる不死不滅の霊的な体は、イエスが死から復活したときに持っていた体とよく似ていると考えています。人々はイエスを認識することができました。イエスは食べ物を食べることができました。彼はまた、明らかに閉じられた部屋を通り抜けることができました。わたしたちの霊的な体は、主に似たものになるでしょう。

ピリピ人への手紙 3:20-21—「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」
21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

黙示録に戻りましょう。20章では、千年の王国について語っています。6節は、現時点で信者に何が起こるかについてのわずかな描写を私たちに与えます—「この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。」クリスチャンは、いわゆる「最初の復活」にあずかります。第二の死はそのような人々に対して何の力も持しません—第二の死は火の池に投げ込まれることであることを、覚えておいてください。あなたの名前が「いのちの書」に書かれているなら、第二の死はあなたを支配する力を持っていません。あなたは王に属しています。

そして黙示録 21 章の中に、全てが新しく造られるとあります。この章を読むのは楽しいです。

1-2 節—「また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。²私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。」

新しい天と新しい地。すべてが更新されます。そして、聖なる都、新しいエルサレムは、神から、天から降りてきます。この新しいエルサレムには、神の義人、キリストに信仰を置き、

新しい命によみがえった人々が住んでいます – 彼らは、この場合は主イエス・キリストである夫に会う準備ができていて花嫁のように、天から降りてきます。

3節 – 「そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、」 私たちは今、私たちの神への妨げられることなくアクセスすることができます。

4節 – 「彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」 涙や痛み、死はもうありません。アダムとイブが罪を犯した後の呪いの結果は今や逆転しています。新しい天と新しい地。それはエデンが回復されるようなものです。

私たちは天国で永遠を過ごすことはありません。私たちの未来の家はここにありますが – 新しくされた地。神は、もともとエデンの園で意図されたように、私たちと一緒にここに住んでくださいます。

ヨハネの黙示録 22:1-2 – 「御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、² 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。」

ここにエデンの園から命の木をみるでしょう。木の葉は癒しのためのものです。——新しい創造物には悲しみや病気はないでしょう。

3-4節 – 「もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、⁴ 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。」

これは私たちが永遠に過ごす場所です—この回復された地球で、神とその御子、主イエス・キリストとの完全な交わりの中で。